





# 「主体的な学び」推進委員会通信

第6号  
令和7(2025)年12月8日  
小郡市教育委員会

小郡市では、11月18日(火)に、味坂小学校で『STEAM教育』に係る県重点課題研究指定中間報告会、11月28日(金)に、三国小学校で『「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的充実を図る学習指導』に係る最終報告会を開催しました。味坂小学校の中間報告会には、市及び北筑後教育事務所管内の先生方を中心に約100名の参加、三国小学校の最終報告会には、市内・県内を含め約340名の参加をいただき、以下のような成果を報告しました。

## 11/18 味坂小学校 中間報告会 「STEAM 教育」(地域課題の解決を目指した探究活動)

授業・単元	公開授業のよさ
<b>第2学年</b> もつとなかよし まちたんけん ～あじさかわくわく マップづくり～	 <p>自分たちで作った味坂小校区の魅力伝えるマップについて、サポーターである校長先生から意見をもらい、さらによいものにしようと意欲的に取り組む姿がありました。「場所」、「人」、「自然・畑」グループ毎に地域の方からアドバイスをもらいながら、わくわくが詰まったマップづくりに挑戦しました。</p>
<b>第3学年</b> 味坂じまんⅠ ～未来につなごう味坂 キラキラプロジェクト～	 <p>地域のよさを5つのグループに分け、ポスターやカルタ、PR 動画などを作成しました。実際に現場を訪れたり、専門家や当事者から様々なアドバイスをもらったりすることで、相手意識をもって自分事として主体的に課題に取り組むことができていました。ICTスキルも高く、様々なツールを使いこなし、質の高い学習が展開されました。</p>
<b>第5学年</b> 見つめよう わたしたちの農業 ～あじっこ市場 みりょく化プロジェクト～	 <p>あじっこ市場に併設されたあじっこサロンを多くの高齢者に利用してもらうために企画したプロジェクトを発表し、意見交流することで、改善点を明らかにしていきました。「イベント」、「ゲーム開発」、「CM・ポスター」グループの成果物を参観者に体験(かぼちゃスープの試食等)してもらったり、サポーターからアドバイスをもらったりすることで、課題解決に向け協力して取り組むことができました。</p>
<b>参観者と子どもたちとの授業後の対話</b>	 <p>授業後に参観者から子どもたちに直接質問をする時間を設けました。子どもたちからは、目的意識や相手意識をもった学びができていたこと、次の時間に何をしたらよいか見通しをもっていることなどの話を聞き、参観者の学びにもつながりました。</p>

### 研究のまとめ 中村学園大学 教授 山本 朋弘 先生

【概要】深い学びにつなげるためのポイントが6つあります。例えば、課題解決の場面で、「課題を自分事」にするために、意味や価値を見だし、見通しをもって解決すること、「各教科の見方・考え方」を働かせるために、見方・考え方を意識化し、自分なりに分析・考察することが重要になります。また、プレゼンテーションなどの制作活動では、デザイン(見た目)重視になりがちだが、質を高める必要があります。

#### 深い学びにつなげるポイント

1. あそび・ゆとり (思考できる時間確保)
2. 課題を自分ごとにしたか
3. 結果のみ、写す作業を減らす
4. クオリティ中心に (デザイン留意)
5. 見直し・ふり返りを共有・持続させる
6. 各教科の見方・考え方を働かせる

### 参会者からのご意見・ご感想 (アンケートフォームより一部抜粋)

- 地域のよさを伝えるポスターや動画をただ作るだけでなく、実際に状況を見に行ったり専門の方々から生の声を聞いたりすることで自分事として考えることができていました。【小郡市内の教職員】
- 生活科の学習について、子どもたちと先生が授業時間以外にも話をされていて、子どもたちの思いを日常的に高め、先生も一緒に楽しもうとしていることが伝わりました。【小郡市内の教職員】
- 子どもたちが目標をもって、活動に取り組んでいる様子が素晴らしいと思いました。最初の目的意識があれば、主体的に学んでいくということが、今日の授業でより実感でき、参考になりました。【小郡市内の教職員】

自己選択・自己決定をする対象

内容 選択	・調べる内容	・個別の問いや課題・目標	・次時の計画
	何を調べる？		
方法 選択	・表現の仕方	・学習用具	・調べる方法
	何をを使う？	・学習形態	・学習環境
		・時間配分・評価	・活動の順序
	低	中	高
	思いにそった選択 → 根拠が明確な選択		

【概要】三国小学校では、『深く学び続ける子ども』を育てるために、左のように、子どもが自己選択・自己決定をする場を『つなぎタイム』として位置付けました。公開授業では、**各教科・領域の本質を大切に内容分析**を基に、**子どもの選択の根拠を重視し、個別と協働が往還する学び**によって、学習内容を確実に習得していく子どもたちの姿を見ることができました。

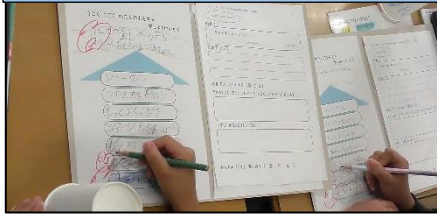
下の写真と説明は、各教科・領域における自己選択・自己決定の例です。

1年生 学活 「たのしい どくしょ」



自分の思い(好きを広げる)(得意を増やす)(知りたい)に合った本を自己選択・自己決定

2年生 図工 「動く動く わたしのおもちゃ」



面白いおもちゃになるようにもつと(高く)(早く)(遠く)等の工夫を自己選択・自己決定

3年生 算数科 「ものの重さをはかろう」



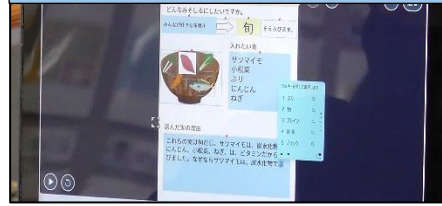
物の重さの予想を基に、量る計器(1kg・2kg・4kgばかり)を自己選択・自己決定

4年生 国語 「しらべたことを書こう」



工芸品の魅力が伝わるように(文構成)(事例)(言葉遣い)を自己選択・自己決定

5年生 家庭科 「食べて元気に」



『冬の元気みそ汁』の実の組み合わせ(栄養)(旬)(色どり)を自己選択・自己決定

6年生 体育科 「ソフトバレーボール」



チームの課題に合わせて練習(ドリル)(タスク)ゲームを自己選択・自己決定

特別支援学級 自立活動 「まあいっか名人」



気持ちの切り替え方(深呼吸)(外を眺める)(まあいっかと言う)等を自己選択・自己決定

研究のまとめ 福岡教育大学教授 坂井 清隆 先生

【概要】三国小学校には、この3年間で、従来の教える中心から、**学ぶ環境を整え、自己調整を促す「教育観」「授業観」に転換**することに挑戦していただきました。そして、本日の授業では、問題解決場面での自己選択・自己決定の場面『つなぎタイム』を中心に、個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実による『深く学び続ける子ども』の姿を多く見ることができました。

参会者からのご意見・ご感想 (アンケートフォームより一部抜粋)

- 個別最適な学びと協働的な学びが同居した学びを目にすることができました。「つなぎタイム」と名付けられた時間をしっかりと保障してあり、自分で考える、友だちから教えてもらう活動が一人一人の時間の使い方、時間の流れで営まれていました。「三国モデル」に所属校でも取り組むべき姿を示していただき、参考になりました。そして、根拠に基づく自己選択・自己決定、教科の本質がキーワードだと感じました。【小郡市内の教職員】
- 学習を自己調整しながら児童主体で進めていくという新たな教育観にふれる機会となったと感じました。そのために、学習(単元)の導入場面など、児童が学びたいと思うような仕掛けも大切だと改めて感じました。「つなぎタイム」の場を児童が有効に活用していた姿は素晴らしかったです。【小郡市外の教職員】
- 自己選択・自己決定の場について、私の勤める小学校でも悩んでいます。今回、実際の授業を見せていただき、学びになりました。また、指導案が学校のHPに載せてあるので、参考にさせていただきます。【小郡市外の教職員】